

世界最先端の建設技術に圧倒！各国関係者を御堂筋共同溝に案内しました。

2014年10月24日(金)、近畿地方整備局は近畿経済産業局と共同で関西領事館フォーラム第18回関西ツアーを開催し、各国の総領事館や外国経済関係機関の方々等計20名を御堂筋共同溝に案内しました。大阪の「キタ」と「ミナミ」を約4キロにわたって結ぶ直径約5メートルの巨大な地下トンネル、地上への影響を最小限に抑えるための上向きシールド工法の採用など、日本の誇る世界最先端の建設技術に、見学した各国の関係者は驚きの声をあげていました。



御堂筋共同溝について説明を受ける参加者

関西領事館フォーラムとは

国の組織や経済団体により設立された国際交流・情報発信の場。在阪の総領事館等を通じ、関西の産業や観光等の「関西ブランド」を世界へ発信するための会合やツアーを実施。

共同溝とは

電気、ガス、水道等のライフラインを道路の地下に収納するトンネル。共同溝の建設により、管やケーブルの新設・更新に伴う道路の掘り返し工事を大幅に縮減でき、地震の被害を受けにくい利点があります。2014年10月現在、大阪国道事務所管内の共同溝の総延長は38.9kmです。

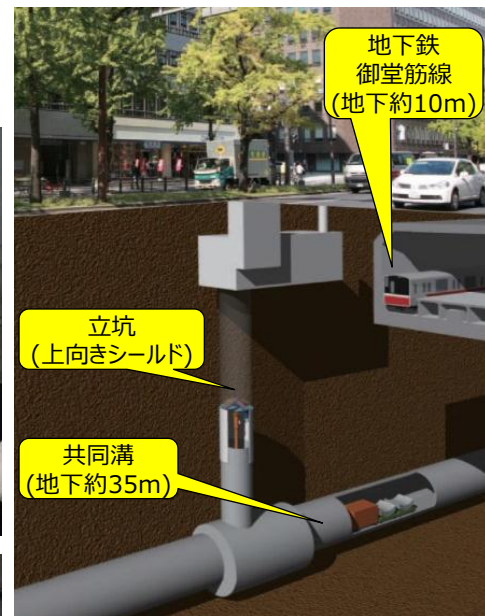


共同溝への入口



立坑を見上げる参加者

御堂筋共同溝のイメージ図



地下鉄御堂筋線 (地下約10m)

立坑 (上向きシールド)

共同溝 (地下約35m)



入口だけでも共同溝の巨大さがわかる



このトンネルが梅田まで伸びています



見学後の記念撮影

上向きシールド工法とは

地中を掘り進みながらトンネルを建設するシールド工法は、道路の掘り返しが不要で市街地での工事に適しています。地下の共同溝から地上に向けて、シールド工法で人員・資材運搬用の立坑(たてこう)を作る上向きシールド工法は、地上への影響を最小限に抑えられるものの、採用例がほとんどなく、世界最先端の建設技術と言えます。